

株式会社日本ベネックス

長崎県諫早市津久葉町

はばたく中小企業・小規模事業者300社

生産性向上

需要獲得

担い手確保

ものづくり

サービス

既存事業の強みを活かした新事業と 多様な人材採用・育成、地域貢献

1957年の創業以来、精密板金加工を基盤に、大手電機メーカー向けの屋外大型映像装置をはじめとした数多くの電気・電子機器、産業機器の製造を手がけてきた。2012年には、事業の第二の柱として、太陽光発電を中心とした環境エネルギー事業に参入。これまでに25MWを超える発電所を手掛けるなど業績を拡大している。また、他社との共同プロジェクトとしての、電気自動車のリユース蓄電池を活用したバーチャル・パワー・プラント（VPP）実証実験に参画するなど、先進的な取組みが注目を集めている。

● 所在地 長崎県諫早市津久葉町99番地48
● 電話／FAX 0957-26-5111／0957-26-7207
● URL <http://www.japan-benex.co.jp/>
● 代表者 代表取締役社長 小林 洋平

● 設立 1957年
● 資本金 9,500万円
● 従業員数 144人



担い手確保

多様性重視、採用強化と最適な人材配置

人材活用では、多様性が力と考え、年齢・性別・国籍を問わず能力本位で配置・処遇しており、総合職ポストに登用した外国人や女性社員が高い成果を上げている。現場の女性の発言機会を増やしたことで画期的な業務改善提案がなされ、業績にも好影響が出ている。経験豊富なシニア人材に能力発揮の場を提供する一方で、新卒・中途採用にも注力している。また、長崎県と連携して、UIターン人材を積極的に確保すると共に、長崎大学で講義を行い、地元企業の先進的な取組みを紹介するなど地域に貢献している。



長崎地域学の講義をする小林社長

既存事業の技術を活かした新事業展開と人材・組織の強化

2011年に入社した現社長は、既存事業の強みを活かした環境エネルギー事業を開始。2014年、当時国内最大級の屋根借りメガソーラー稼働で事業を拡大。2018年には住友商事とEVリユース蓄電池を活用したVPP実証事業「みらいの工場」プロジェクトを発足した。2016年の社長就任後は、人材強化・組織強化を最重要課題と設定。自律的に成長できる組織をめざし、目標管理制度の導入や独自の生産管理システムによる業務効率化、社員懇談会によるコミュニケーション強化など多様な改革を実施している。



ベネックス流山ソーラーポート

社員のやりがい、社内コミュニケーションを重視

社員の成長、達成感につながる環境整備を積極的に行っている。社員の意識改革と組織の強化に向けては、能力開発を支援する教育制度の導入や研修、個別指導などを実施している。管理職についてはジョブローテーションを実行し、複数の職務を定期的・計画的に経験させて個々の能力向上を促進している。また、一人一人のモチベーション向上のために、提案・改善を促す表彰制度を設けた他、目安箱を設置し個別の問題に社長自ら対処するなど、コミュニケーション強化を図っている。



改善勉強会

ものづくり